

# 福島と事故の不可避性

チャールズ・ペロー

望月浩二 訳

## Charles Perrow

1925年生まれ。イエール大学名誉教授、スタンフォード大学客員教授。組織論に関する数冊の本と数多くの論文を著す。主な関心は、巨大組織の社会に対する影響、およびその破壊的な潜在力。スリーマイル島原発事故では政府による原因調査委員会の委員を務めた。ペロー氏の「当たり前の事故理論」は、我々の命を巨事故から守るための「事故学」の基礎として、故高木仁三郎氏にも影響を与えた。

## もちづき・こうじ

1947年生まれ。大学での専攻は応用物理。35年来、ドイツのケルンに在住。現在は、環境・エネルギー問題のコンサルタントを自営。

Charles Perrow, "Fukushima and the Inevitability of Accidents," *Bulletin of the Atomic Scientists*, November 1, 2011.

Reproduced by permission of SAGE Publications, London, Los Angeles, New Delhi and Singapore. Copyright (© Charles Perrow, 2011)